

平成 21 年度 第 4 回市長タウンミーティング議事録

と き：平成 21 年 4 月 18 日(土)

午後 7 時～8 時 30 分

ところ：東公民館

参加者：76 人

○市長あいさつ

(市長より、平成 21 年度の施策・予算について説明が行われました。)

○意見交換

質問 (女性)

市議会議員のある会派のチラシで、蕨戸田衛生センターの事務局長が再任されたことと、市外在住の職員が消防長に任命された人事について疑問視する意見が書かれていましたが、何か問題があるのでしょうか。

回答 (市長)

真意は議員さんにお聞きするほかないのですが・・・、蕨市のごみ処理は、戸田市といっしょに一部事務組合を作り、蕨戸田衛生センターで行っています。責任者は蕨市長の私で、副責任者は戸田市長さんです。

現在、衛生センターでは、焼却炉延命化対策という大きな事業を抱えています。老朽化した焼却炉を新しく造りなおすと約 150 億円かかるので、経費は約 10 分の 1 程度で、あと 15 年程度使えるよう 4 年かけて延命化工事を行っており、今年で 3 年目になっています。また、ごみを堆肥や草花と交換できる全国でも珍しい試みである「リサイクルフラワーセンター」をこの秋から立ち上げる計画もあります。いずれも大きな重要な事業です。

今の事務局長は、経験豊富で現場職員からも信頼が厚い人です。そこで定年延長制度を活用し、後継者を育成してもらいながら、責任を持って延命化対策をきちんと完了してもらうために、現在の事務局長に采配を振るってもらうようお願いをしました。特に、そのための市のお金もかかっていませんし、ごみ処理のための安全安心の良い体制をとりましたので、まったく問題はありません。

また、消防長が市外から通勤し、火災のときなどの心配があるようですが、消防長は、これまで市民生活部長として危機管理監を兼任し、市と市民の安全を守るため、今までも何ら支障がなく職務を全うしてきた職員です。そうした実績のある職員を消防長に任命し

ました。夜間の火災は、必ず副署長クラスが当直勤務し、指揮を執ることになっており、大きな火災の場合は、消防団の皆さんに協力を願い、出動してもらいます。消防署長も市外在住ですが、すぐ駆けつけて指揮をとるので支障はないと考えています。

質問（男性）

市議会議員の定数 18 名は多いと思います。削減を考えていただきたい。人口 1 万人に対して議員は 1 人くらいが良いと聞いたことがあるので、少なくとも 3 名削減をして、その軽費でもっと明るく住みよい市政の充実を図ってほしいです。

回答（市長）

議員さんの削減要望は、他の会場でも出されましたが、最終的には、議員さんの数を決めるのは市民の皆さんであると思います。今回のご意見も後日、ホームページに掲載しますので、議員さんの目にもとまり、こうしたご意見があることを分かっていたのではないのでしょうか。市長の立場から議員定数の削減を提案することは難しい問題ですが、市民の身近な声として率直に出していただき、十分に議論をすることも良いのではないのでしょうか。

質問（男性）

地震に強い建物にすることが大切と考えていますが、個人の家で耐震化を進める場合、何か市の補助制度があるのでしょうか。

回答（市長）

地震対策は大切です。阪神淡路大震災では自宅が倒れて下敷きになった犠牲者がいちばん多かったそうです。そこで、個人でも建物の耐震化を進めてもらおうと地震ハザードマップを作成しました。昭和 56 年以前の建物の診断が必要であり、市では、「既存木造住宅の無料簡易耐震診断」や「既存木造建築物耐震診断補助制度」、そして「既存木造建築物耐震改修補助制度」といった耐震診断や補助制度があります。市役所 2 階の建築課建築開発指導係が担当なので、どんなことでも相談してください。

また、家具を固定することも大切な耐震対策です。建物が倒れないようにするには耐震化が必要ですが、家具が倒れて怪我をすることも多いので、例えば、食器棚のガラスが割れて怪我をしないよう、少し不便にはなりますが、傾いたときに開かない工夫をするなど、まず自分の身は自分で守る努力をしてほしいと思います。

もう 1 つ、昨年からは、住宅用の火災報知器の設置が義務となっています。火災で特に高齢者のかたが、逃げ遅れて亡くなるケースが多いので、安全安心のためにもぜひ設置をしてください。

質問（男性）

市長就任後まもなく2年になり、市長マニフェストの実現に向けて努力されていますが、財政状況が悪化する中、水道事業の企業債が平成10年で19億7,000万円、事業推進には、独立採算制の意味からも一般会計から出資金として市から繰り出しをしてきています。今は、繰り出しは無いようですが、平成20年度末現在、企業債の残高が約43億1,700万円です。市長は、水道料金の値上げをしないと表明していますが、どのようにこの借金を克服していくのでしょうか。重要な課題であるので、水道行政のあり方について市長の考えをお聞きしたい。

また、昭和33年3月に蕨市の水道施設が完成し、翌4月給水が始まり、去年は50周年の年でしたが、記念事業が行われませんでした。少なくとも市民の暮らし、命に直接影響する水道事業について、例えば、記念誌としてまとめるといった考えはなかったのでしょうか。

回答（市長）

約43億の企業債、つまり借金をご心配とのことですが、水道事業は大変に順調で、現在、黒字になっています。今の条件のままであれば、今の料金で借金は返済できます。水道料金に一番影響する問題は、「県水」の料金です。市民の皆さんが飲んでいる水道の水の約8割は県の水を買って配水、残り2割を地下からくみ上げています。県の水が値上げになれば、皆さんに料金改定をお願いしなければならないこともあります。ここ2年間は、県水の値上げはないということですので、今の料金でやっていけます。これまで一番お金を使ってきたのは、市内全域で水道管として長年にわたって使用してきた石綿セメント管を、地震に強いダクタイル鋳鉄管に取り替えるための工事です。この工事は、平成に入ってから始め、そのお金を市から出資金として入れて工事をしてきましたが、ほぼ終了したので、その関係のお金を使うことはなくなってきています。

去年は塚越浄水場の改修工事が完了し、現在は、中央浄水場も同じように耐震化を含めた改修工事を進めています。これも一部借金をして工事を行っていますが、これ以降は大きな事業計画がなく、大きなお金も必要ないので、順調に借金を返していけます。

また、水道事業の50周年につきましては、ご指摘の通り、水道事業の50周年記念事業は行っていませんが、歴史を振り返り、整理することは重要なことなので、水道部に申し伝えます。

質問（男性）

先ほど、個人の家の耐震診断や改修についての補助制度の話がありましたが、共同住宅の耐震化に対する補助制度はありますか。

回答（市長）

先ほど、ご紹介した制度は、昭和56年以前の個人の木造住宅を対象にした耐震診断や改

修補助制度です。共同住宅が対象になるのか、今、すぐには分かりませんが、専門的な判断が必要な場合や特殊な構造の建物の場合もあり、対象にならない場合もありますので、まずは、市役所 2 階の建築課建築開発指導係にどんなことでもご相談ください。

(※建築課：共同住宅は対象になりません)

質問（女性）

先日、地震ハザードマップが家に届き、良かったと思っています。残念だったのは、せっかくいただいたマップが、すぐに破れてしまったこと…。希望としては、もう少し良い紙を使ったほうが良かったのではないのでしょうか。

回答（市長）

このハザードマップは、全国でも珍しい、市民参加の「ワークショップ形式」を取り入れ、市民の声を生かしてできる限りまちの状況を反映させながら作成しました。予算を増やさずに業者にも大変に努力をしてもらって作成した経緯があります。今年度は、洪水ハザードマップを作成するので、担当にご意見を伝え、使用する紙については今後の課題とさせていただきます。

質問（男性）

学校の統廃合が議会でも問題になっているようです。個人的には、塚越小と東小のことではないかと思っていますが、市長はどのように考えているのでしょうか。

また、今朝、戸田市の人から「蕨市の定額給付金の案内が非常に分かりやすい」と、お褒めの言葉をもらいました。こうしたちょっとしたことでうれしいものです。ぜひ、担当職員に伝えてほしいと思います。

回答（市長）

小・中学校の統廃合につきましては、結論から言えば、絶対反対とか、絶対進めるというものではございません。地域の皆さんのご理解と子どもたちの学習環境、そして市の財政状況など、いろんな角度から考えるテーマだと思っています。具体的に塚越の話が出ましたが、東小は 130 年くらいの歴史があり、30 数年前に塚越小ができたころは、東小の児童数が約 1,400 人で、それぞれ 700 人ずつくらいに分かれた経緯があります。今は、2 校併せて 700 人くらいの児童数で、各学年 2 クラスずつくらいになっています。私の下の子が小学校 3 年生で、私が子どもころの感覚で運動会に行くと子どもたちが少ないと感じます。保護者の皆さんの中にも、こんなに少ないのだから、学校がいっしょになってやったほうが楽しいし、いっしょになれば経費も助かります。その分もっと学校の整備ができるのではないかとといった意見もあります。

一方では、卒業生の思い出や学校の歴史、地域とのつながり、そして学習環境を考えると合併等はしないほうがいいのかといった、いろいろな意見があります。そこで

現在、教育委員会でこうした問題について検討を進めています。議会でもいろいろな意見があり、最終的には、教育委員会だけでは結論を出せないなので、私も含めて市民の皆さんのご意見をお聞きしながら、子どもたちにとってプラスになるのかマイナスになるのか、子どもたちの学習環境を第一に考えることが大切なので、私も含めて議論を深めていきたいと思います。もちろんマイナスになるようであれば、統廃合の提案はできません。

また、文部科学省が考えている標準規模は、1学年が2クラスか3クラス。そういう意味からは、東小も塚越小も標準ではないかと思います。さすがに1学年が1クラスになると統合することが多いようですが、いろいろな角度から議論をしていくことは必要だと考えています。

定額給付金の担当課は、このタウンミーティングを開催している政策企画室なので、直接、うれしいご意見が職員にも伝わったと思います。なお、口座番号や身分証明の写しを添付することが一番大切になりますので、ご苦勞をおかけしますが、申請時には再度確認するなどご協力をお願いいたします。

質問（女性）

駅前の放置自転車が気になります。市も努力しているのは分かりますが、改善が見られないのが残念です。商店街といっしょになって何とか解決できないものかと願っています。

回答（市長）

仰るとおり、解決しなければならない課題です。定期的に統計を取っていますので、西口はだいぶ少なくなったのは事実ですが、東口は満足できる状況ではありません。シルバー人材センターにもご支援をいただき、放置自転車の撤去や防止に努力していますが、特効薬がないのが現状です。川口市民の利用が多いので、川口市の駐輪場を増やせないかなど、川口市とも協議をしています。塚越5丁目の撤去した自転車の保管場所も常にいっぱいになっていて、これ以上、撤去台数を増やすことも難しい現状です。商店街では、コーンを置くなどして努力をしていますが景観上もよくないので、現在、フラワーポットを置くことを検討しているとお聞きしています。市も、今年の秋に蕨戸田衛生センター内にオープンする「リサイクルフラワーセンター」を活用するなどして商店街に協力し、花を飾るなど、まちをきれいにするとともに、放置自転車の一掃にこれからも努力していきたいと考えています。

放置自転車の数と犯罪は比例するといわれるように、蕨市内の刑法犯の約3割が放置自転車関連となっています。つまり、放置自転車を減らすことが犯罪を少なくすることに結びつきます。以前、あるテレビ番組で、物を置いてもどかして放置してしまうので、ベンチを置いて放置自転車をなくしたり、商店街が協力して、市の指定の場所に止めるとお店でサービスをしたり、あるいは商店街の掃除に参加したらポイントがもらえたりといった取り組みを通して、放置自転車を減らした事例が紹介されていました。商店街も市民もと

もに喜ばれるような取り組みだと感じました。担当でも、いろいろなアイデアを研究しながら、放置自転車をなくす工夫を考えています。蕨市は市域が狭く平坦であるので自転車が便利なまちでもあり、自転車をキーワードの 1 つとして、まちづくりを進めていくことも考えていきたいと思います。

また、自転車の事故も多いので、乗る側のマナーも考える必要があります。蕨市には大荒田交通公園というすばらしい公園があります。子どもの利用が多いのですが、こうした所で改めて交通マナーを学ぶことも大切ではないかと思います。

質問（女性）

多くの子どもたちも遊ぶ公園である市民公園が汚されているのが気になっています。犬の散歩でふんを片付けない人もいるので、何とかならないものでしょうか。

回答（市長）

自分たちの地域の公園は自分たちできれいにしようと、地域の皆さんで組織する自主管理団体のご協力をいただきながら、市も公園を安全で快適に利用してもらえよう努力をしていますが、早速、ご意見を担当に伝え、現状がどうなっているのかも含めて調べさせ、何らかの対応を図っていきます。これからも何かありましたら、お声を寄せてください。